



一宮町長
馬淵 昌也

3月も下旬となり、桜の花の季節となりました。先日、玉前神社において、桜の開花宣言が行われ、わたくしも参加しました。今年は、例年より早い開花だそうです。

わたくしの大学生時代、1970年代後半を思い出してみると、桜の花、特にソメイヨシノは、4月の8日前後に満開となっていたと記憶します。当時、この頃に新年度のガイダンスが行われ、その後、研究室の仲間と上野公園に花見に行ったことを思い出します。不忍の池の周りには、満開の桜と、芽吹いた柳が交互にならんで、まさしく「見渡せば柳桜をこまませて都ぞ春の錦なりける」(素性法師作・『古今集』所収)の和歌そのものであります。その頃に比べると、今は大分早まっています。4月の入学式、始業式前後は、すでに散り始めていることが多くなりました。これは、やはり地球温暖化の結果なのでしょうか。

桜といえば、最近、ソメイヨシノだけでなく、2月から咲くカワヅザクラにも大分人気がでています。白子の海岸沿いに植栽されているのもこの種

類です。その後3月中旬に咲き、ピンクの色が濃く、艶麗な咲きぶりのヒガンザクラも多く植えられるようになってきました。また、3月下旬、ソメイヨシノに前後して、一宮町の里山には、ヤマザクラが白く咲き誇ります。

よく考えてみると、カワヅザクラから始まって、5月連休まで咲いている八重桜までの間、大体2ヶ月前後もあります。この間、広い公園や山などに、意識的に、順番に開花時期を迎える品種を植え並べて、サクラがずっと楽しめるようにするのは、面白い戦略といえるでしょう。

一宮町では、かつて洞庭湖が桜の名所として有名でした。今では、すっかり衰えてしまいましたが、その再興を願う方も多くいらつしやいます。ため池機能を維持するために、現在では木を池のほとりに植えることは禁止手となつていますが、山の斜面などに、雑木の代わりに桜を植えることはできるかもしれません。残っている桜も大事にして、再度桜の名所にできる可能性を探ってみたいと思つています。